

九州初記録のユゴイ科魚類オオクチユゴイ

岩坪洗樹¹・橋口 亘²・本村浩之³¹ 〒 892-0847 鹿児島市西千石町 11-21 鹿児島 MS ビル 鹿児島水圏生物博物館² 〒 898-0101 鹿児島県南さつま市坊津町坊 9424-1 坊津歴史資料センター輝津館³ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

スズキ目ユゴイ科魚類は日本国内から、ユゴイ *Kuhlia marginata* (Cuvier, 1829), ギンユゴイ *K. mugil* (Forster, 1801), トゲナガユゴイ *K. munda* (De Vis, 1884), およびオオクチユゴイ *K. rupestris* (Lacepède, 1802) の4種が報告されている(佐々木, 2009; 林・萩原, 2013). このうち、ギンユゴイのみが生涯を海で生活する(佐々木, 2009; 林・萩原, 2013). しかし、他3種は海で産卵するが、一生の大部分を河川で生活することが知られている(佐々木, 2009; 林・萩原, 2013).

オオクチユゴイはこれまでに神奈川県、高知県、島根県、および琉球列島から報告されている(佐々木, 2009; 林・萩原, 2013; 桑原, 2016 など). 2016年12月10日に鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川から3個体のオオクチユゴイが採集された。これは九州からの初めての標本に基づく記録となる。そのため、得られた標本を記載しここに報告する。

■ 材料と方法

計数・計測方法は Hubbs and Lagler (1947) にしたがった。標準体長は体長と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位で行い、計測

値は体長に対する百分率で示した。対鰭鰭条数は左体側のものを計数した。鮮時のオオクチユゴイの体色は、KAUM-I. 200545 のカラー写真に基づいて記載した。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、その標本のカラー写真は同館と鹿児島水圏生物博物館のデータベースに登録されている。

■ 結果と考察

Kuhlia rupestris (Lacepède, 1802)

オオクチユゴイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 200545, 体長 25.8 mm, KAUM-I. 200551, 体長 21.2 mm, KAUM-I. 200552, 体長 23.8 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川の河口から約 50 m 地点 (31°17'55"N, 130°13'19"S), タモ網, 水深 0.3 m, 2016年12月10日, 岩坪洗樹.

記載 背鰭条数 X, 11; 臀鰭条数 III, 10-11, 胸鰭条数 14-16, 腹鰭条数 I, 5, 側線有孔鱗数 41-43. 体各部の体長に対する割合 (%) は以下の通り: 頭長 34.0-34.5; 最大体高 33.2-35.3; 最大体幅 13.0-16.3; 吻長 7.5-8.0; 主上顎骨長 12.2-13.2; 眼径 11.6-12.3; 両眼間隔 10.1-10.9; 背鰭前長 41.0-42.4; 背鰭基底長 41.1-43.9; 背鰭第1棘長 3.4-3.8; 背鰭第2棘長 7.4-8.8; 背鰭第3棘長 11.6-12.7; 背鰭第4棘長 14.6-15.1; 背鰭第9棘長 7.5-8.4; 背鰭最終棘長 10.9-11.3; 背鰭最長軟条長 15.1-16.5; 臀鰭前長 61.3-63.0; 臀鰭基底

Iwatsubo, H., W. Hashiguchi and H. Motomura. 2016. First records of *Kuhlia rupestris* (Perciformes: Kuhlidae) from Kyushu, Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 189-192.

✉ HI: Kagoshima Museum of Aquatic Biodiversity, Kagoshima MS Building, 11-21 Nishisengoku, Kagoshima 892-0847, Japan (e-mail: k8878027@kadai.jp).



Fig. 1. Photograph of fresh specimen of *Kuhlia rupestris* from Hakata River, Kushi, Bonotsu, Minami-satsuma, Kagoshima, southern Japan (KAUM-I. 200545, 25.8 mm SL).



Fig. 2. Photograph of fresh specimen of *Kuhlia marginata* from Hakata River, Kushi, Bonotsu, Minami-satsuma, Kagoshima, southern Japan (KAUM-I. 200550, 22.1 mm SL).

長 22.1–24.4；臀鰭第 1 棘長 4.2–4.6；臀鰭第 2 棘長 8.8–9.0；臀鰭第 3 棘長 11.2–11.8；臀鰭最終軟条長 13.6–14.2；尾柄長 17.5–18.9；尾柄高 12.3–13.2；胸鰭長 14.2–18.2；腹鰭長 15.1–15.9。

体は側面からみたときに前後方向に長い長楕円形で、よく側偏する。体高は背鰭始部で最大になる。尾柄高はやや高く、最大体高の 0.37–0.39 倍。

吻端は尖り、下顎が上顎よりやや突出する。主上顎骨後端は瞳孔前縁を越えるが、瞳孔中央にわずかに達しない。鰓蓋に 2 本の棘がある。前鰓蓋骨下縁は鋸歯状である。鱗は櫛鱗。頭部は頬部、鰓蓋に鱗があり、吻部、眼隔域、上顎に鱗はない。眼はほぼ正円形を呈する。背鰭は 1 基で、中央がくぼむ。背鰭棘は第 1 棘が最短で、第 4 棘が最長

である。その後、第9棘にかけて徐々に短くなるが、第10棘は第8棘とほぼ同長である。背鰭軟条は第2軟条が最長で、後方のものほど短くなる。臀鰭始部は背鰭第10棘直下に位置する。臀鰭棘は第1棘が最短で、第3棘が最長である。臀鰭軟条は第1軟条が最長で、後方のものほど短くなる。腹鰭基底は背鰭始部直下よりわずかに前方に位置する。尾鰭は二又し、両葉後端は丸い。

色彩 鮮時の体色 (Fig. 1) : 頭部と体部はそれぞれ側面から腹面にかけて銀白色で、黒色点がまばらに存在する。頭部と体部の背面はそれぞれ褐色を呈する。眼は虹彩が銀色で、上縁が茶色を呈する。背鰭は半透明で、下半部が乳白色を帯び、棘部上半部が橙色を帯びる。背鰭軟条部の前半部に黒色斑があり、この黒色斑の上部後縁は黄色を帯びる。臀鰭は半透明で、中央に薄い黄色斜帯が走る。尾鰭基底付近に黒色点が密に散在する。尾鰭は半透明で両葉の中央にそれぞれ黒色斑がある。この黒色斑はそれぞれ後縁が黄色を帯びる。胸鰭は透明で、腹鰭は半透明。

備考 鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川から採集された標本は、体長 450 mm までの幼魚であり、側線有孔鱗数が 41–43 であること、背鰭と尾鰭に明瞭な橙色部がないこと、尾鰭の両葉中央にそれぞれ黒色斑があることなどから、高橋・瀬能 (1995) や林・萩原 (2013) が示したオオクチユゴイ *Kuhlia rupestris* の標徴とよく一致した。

オオクチユゴイは日本国内では、神奈川県横浜市侍従川 (工藤・瀬能, 2002; 林・萩原, 2013), 高知県須崎市灰方川 (高橋・瀬能, 1995; 林・萩原, 2013), 島根県松江市忌部川 (桑原, 2016), 大隅諸島屋久島 (Yonezawa et al., 2010), 奄美群島与論島 (目黒, 2014), 沖縄県沖縄島 (吉郷・中村, 2008), 宮古諸島宮古島 (吉郷ほか, 2005), 八重山諸島西表島 (吉郷ほか, 2001; 佐々木, 2009), および与那国島 (吉郷ほか, 2001; Koeda et al., 2016) から記録されている。したがって、鹿児島県南さつま市博多川から採集された3個体は、オオクチユゴイの九州からの標本に基づく初めての記録となる。

本報告の採集場所の環境は、幅 1–2 m の小規

模な川の河口から上流に向かって約 50 m 地点で、満潮時でも塩分 0 の純淡水域であった。また、川の底質は拳大以上の石が多い礫底であった。

高橋・瀬能 (1995) はオオクチユゴイとユゴイ *Kuhlia marginata* が同所的に採集されたと報告した。本報告でもオオクチユゴイとユゴイがともに混在した小規模な群れを形成していたことが目視で確認され、それぞれ同地点から採集された (Figs. 1–2)。

比較標本 ユゴイ: KAUM-I. 200550, 体長 22.1 mm, 鹿児島県南さつま市坊津町久志博多川の河口から約 50 m 地点 (31°17'55"N, 130°13'19"S), タモ網, 水深 0.3 m, 2016 年 12 月 10 日, 岩坪洗樹。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学魚類分類学研究室の皆様には適切な助言を頂いた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまには標本整理などのご協力をいただいた。植田直厚氏 (長崎県漁業公社) と畑 晴陵氏 (鹿児島大学連合農学研究所) には文献の収集にご協力いただいた。以上の諸氏に対して深く感謝の意を表す。なお本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」と鹿児島水圏生物博物館の「鹿児島の魚図鑑プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 科 研 費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- 林 公義・萩原清司. 2013. ユゴイ科. Pp. 1071-1072, 2037. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hubbs, C. L. and Lagler, K. F. 1947. Fishes of the Great Lakes region. Cranbrook Institute of Science Bulletin (26): i-xi + 1-186.
- Koeda, K., Hibino, Y., Yoshida, T., Kimura Y., Miki, R., Kunishima, T., Sasaki, D., Furukawa, T., Sakurai, M., Eguchi, K., Suzuki, H., Inaba, T., Uejo, T., Tanaka, S., Fujisawa, M., Wada, H. and Uchiyama, T. 2016. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. vi + 120 pp.
- 工藤孝浩・瀬能 宏. 2002. 横浜市侍従川におけるオオクチユゴイの出現. 神奈川自然誌資料, 23: 3-4.
- 桑原正樹. 2016. 島根県におけるオオクチユゴイの新記録. ホシザキグリーン財団研究報告, 19: 1-3.
- 目黒昌利. 2014. オオクチユゴイ. P. 314. 本村浩之・松浦啓一 (編). 奄美群島最南端の島 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 佐々木邦夫. 2009. ユゴイ科. Pp. 422-423. 岡村 収・尼岡邦夫 (編・監). 日本の海水魚 第3版. 山と溪谷社, 東京.
- 高橋弘明・瀬能 宏. 1995. 高知県で採集されたオオクチユゴイ. I.O.P. Diving News, 6 (6): 2.
- Yonezawa, T., Shinomiya, A. and Motomura, H. 2010. Freshwater fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. Pp. 249-261 in Motomura, H. and Matsuura, K. (eds.), Fishes of Yaku-shima Island - A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 吉郷英範・内藤順一・中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (2): 119-168.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (5): 1-51, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総合目録. 庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告, (8): 1-111, pl. 1.